



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲 (日本YMCA同盟)

第2回グリーン・アンバサダー(環境大使)研修報告 香港・ウーカイシャ・ユースビルレッジ Duncan Chowdhury



アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)主催の第2回グリーン・アンバサダー(環境大使)研修が、2013年5月8日～14日、香港・ウーカイシャ・ユースビルレッジにて開催されました。バングラデシュ、香港、インド、マカオ、パキスタン、台湾とタイのYMCAから全11人の参加者が集いました。この研修は、APAYグリーン・チームが進行役を務めました。

初日には、香港中華YMCAの副総主事 Simon Chan 氏が開会礼拝を司式しました。APAY 会長 Yau Chung Wan 氏、香港中華YMCA総主事および香港YMCA同盟名誉総主事の Karl Lau 氏、APAY 総主事の山田公平氏が研修プログラムの開幕セッションに出席し、参加者に対し、それぞれのYMCAで環境に配慮した活動にもっとかかわってほしいと話しました。

香港の Eco Institute(生態協会)の創立者であり代表でもある Samson So 氏が基調講演を行い、地球上のエコロジー、環境、生物多様性の現状について詳しく述べました。研修中には、アジア・太平洋地域のYMCAで最も優れた環境対策を行ったタイ・チェンマイYMCA、香港中華YMCA、香港YMCAの事例が報告されました。参加者はフィールドワークとして香港のゼロ・カーボン(炭素排出ゼロ)のビル、有機農場、プラスチック・リサイクル・センターを訪れました。

APAY グリーン・チームの一員であるオーストラリア出身の Colin Lambie 氏が、エネルギー単位に関する専門用語や、さまざまな電化製品のエネルギーの消費の特徴について参加者に説明しました。彼はまた、さまざまなエネルギー機器やその費用対効果(コスト・ベネフィット)についても説明しました。参加者は、YMCAにおける炭素排出量を「オンライン二酸化炭素計算機」を用いながら実践的に推測することを学びました。また、それぞれの所属YMCAでのエネルギー消費量や私たちが排出している二酸化炭素の量、そしてその二酸化炭素を帳消しにすることが可能な方法について学びました。

最後のセッションではグリーン・チームのガイドラインについて学びました。参加者は、それぞれのYMCAでグリーン・チームを組織することが求められています。また、この研修から各自の場へ戻ってから、スタッフ、社会やYMCAの視点から立案した行動計画を達成することも求められています。

第1回のグリーン・アンバサダー研修は2012年5月にタイ・チェンマイで開催されました。アジア・太平洋地域の多くの国から15人が昨年のプログラムに参加しました。

現在、アジア・太平洋地域には総勢26人のグリーン・アンバサダーがおり、これまで2年間で各自の所属YMCAでさまざまな環境保護の活動を行うことができるよう研修を受けられました。

彼らは全体の行動計画に沿って、それぞれのYMCAで小さなグリーン・チームを組織しました。APAY のウェブサイト上にある「オンライン二酸化炭素計算機」を用い、各YMCAでの二酸化炭素排出量をモニタリングすることも、行動計画の一環です。それぞれのグリーン・チームは、YMCAが活動を行う際に、より環境にやさしい組織になること、二酸化炭素排出量を減らすために効果的な方法をとること、再生可能なエネルギーに関するプログラムを開始すること、

人々の行動パターンを変化させることによって、より環境にやさしい組織となれるよう働きかけます。

APAYには、APAYグリーン・チームのメンバーとしてかわる積極的な環境メンター(助言指導者)がおり、各国においてさまざまな環境保護活動(グリーン・アクティビティ)を行うグリーン・アンバサダーたちを導き、支援しています。

APAYは現在、フォローアップ・プログラムとして各国レベルでのグリーン・アンバサダー研修を行う計画をしており、各国でも研修が行われれば、さらに多くのユースが参画することが可能になります。

APAYは、香港YMCA同盟より財政的なご支援をいただいたことに感謝いたします。

チェンジ・エージェント

Roger Peiris

世界YMCA同盟は、世界中から200人のユースを「チェンジ・エージェント」として選出し、2013年～2014年にかけて、世界YMCA同盟レベルや各地域YMCA同盟レベルで研修を行うことと決定しました。同様の案が2012年～2015年のAPAY戦略計画にも組み込まれています。APAYでは「チェンジ・エージェント」という名称の代わりに「ユース代表(Youth Reps)」という表現を用いており、APAYはすでにユース委員11人を含む45人のユース代表を選出しています。APAYは、各国ユース代表対象の研修を、2012年8月にスリランカで、2013年3月、常務委員会の直後に香港で行いました。

世界YMCA同盟では、チェンジ・エージェントを通して若者の生活の質(quality of life)の向上を目指した働きを行うため、各コミュニティからグローバルな場へとユースの声を届けるプロジェクトを企画しています。119の国・地域にある世界中のYMCAとともに、世界YMCA同盟は変革を起こしうる地球市民の意見の調査を行う「百万人の声(One Million Voices)」プロジェクトを計画しています。

「百万人の声」調査プロジェクトの最終目的は、若者(15歳～24歳)が現在の状況をどう見ているか、またそのことに

対して各個人や若者全体はどのような意見を持っているのか、情報を収集し、理解することです。プロジェクトの成果は、雇用、健康、市民参画、組織・団体への関与などの社会公正やバリア(障壁)、機会について、ユースがどのように見ているか理解するのに貢献するものです。

チェンジ・エージェントのミッションは、ユース・エンパワーメントという共通の傘の下で、YMCA運動をひとつにいくことです。彼らはおおむね18歳～30歳で、YMCAのミッションにかかわり、ボランティアあるいはスタッフとして長期的にリーダーシップを発揮しようと、各YMCA、各国YMCA同盟、世界YMCA同盟による一連の研修を受けています。2014年12月まで具体的な活動をする、そしてそれ以降も活動を続けていくことが期待されています。

2013年8月4日～10日には、チェコ・プラハでLove2LifeをテーマにしたYMCAヨーロッパ・フェスティバルが開催されます。そこでは、若さに刺激を与える人生・生活、文化、多様性、国際理解などあらゆることから、ヨーロッパをはじめとする全世界から集まる10,000人の若者とともに祝います。

会期中の1週間、フェスティバルでは若者たちを「旅」に誘います。それぞれの夢、熱望、才能を探り、リーダーシップ・スキルを伸ばし、世界や自分の住んでいる国やコミュニティでより活動的な存在となるよう促します。

プログラムで行われるのは、パフォーマンス、音楽、ワークショップ、スポーツ、リーダーシップ・トレーニングや文化イベントなどです。

APAYからは約30人のチェンジ・エージェントがYMCAヨーロッパ・フェスティバルと研修に参加します。

YMCA災害対策ワークショップ

Eroisa Borreo

近年、アジア・太平洋地域では、多くの人命が奪われ、経済への影響を及ぼすような大規模災害に断続的に見舞われてきました。とりわけ大きなものは、2011年の東日本で発生した地震であり、津波と放射能汚染も相次いで起こりました。

Yケア・インターナショナルとAPAYの継続的な支援・協力

のもと、緊急時や災害支援YMCAスタッフやボランティアの能力を高める目的で、災害予防・対策・リスク回避ワークショップが2013年7月21日～26日、スリランカ・カラルにて開催されます。

開催要項は各国YMCA同盟にお送りしています。

総主事デスクより・・・
環境問題に取り組む

アジア・太平洋YMCA同盟総主事
山田公平

2011年に行われた APAY 総会で、YMCAとして環境問題に積極的に取り組もうという方針が出されました。その後作られた4か年計画では、グリーン・アンバサダー(大使)を多く生み出すこととしました。まず1回目は、2012年5月にタイのチェンマイで行い、今回5月に香港でその2回目が行われました。この2回の研修で約30人がグリーン・アンバサダーとなりました。今回は、研修後に何をすべきかという話し合いになり、みんなで決意宣言を出しました。(詳しくは APAY のウェブページ



<http://www.asiapacificymca.org/joomla/> を見てください)

今回の香港研修では、カーボンゼロ(二酸化炭素排出ゼロ)の新しいビルを見学し、二酸化炭素排出を少しでも小さくしようという建物の工夫や考え方を学びました。私たちはみな、その考え方に感心し、YMCAとして各地域で環境の問題に取り組む必要を痛感させられました。

- 今後のYMCA全体の目標として考えたことは、
- ・各YMCAに グリーン・チームを設置する。その目標を全YMCAの10%以上とする。
 - ・さまざまな形で環境への取り組み方を研修する機会を生み出す。
 - ・YMCAが排出する二酸化炭素量を調べ、削減の方法を検討する。(コスト面でも有利)
 - ・環境問題への具体的取り組みに若者の参加を促し、各地のYMCAで計画し、実施する。
- 今回の決意宣言にもあるように、今後はいくつかの国での取り組みを促し、成功例を作り出すことが大切であると考え

ました。各国で効果的な研修を行い、具体的な活動がローカルレベルで行えるようにすること、そして成功例を紹介し、さらにこの運動が推進されるように努めるべきと考えています。

今後は、各地で他の団体が何をしているのかを知ることがまず必要です。今回は、カーボンゼロ・ビルディングに学んだことが刺激になりました。香港のある島では、島全体で食べ残しを集め、それを肥料にする運動をしているところがあります。各家庭で出た食べ物の残りをどのように集めているのか、においの問題や人手をどのようにしているのか、さらには作られた肥料をどう使っているのか、そして費用はどのくらいか、YMCAとして取り組めるものかなど次々と疑問が出てきます。

そして、グリーン・アンバサダーのような地球環境に関心を持つ人を育成すること、地域ごとに環境問題に取り組むこと、若者をその運動の中心に据えること、これらは、YMCA運動が地域で強められ、世界とつながっていく、そんな未来に向かっていく確実な一歩になると感じました。

インドネシア・マカッサル、メダン、ジョグジャカルタに
YMCAがもたらした変化
Richard Kaing



2013年5月、私はインドネシアで10日間過ごす間、3つのYMCAを訪ね、彼らのビジョン、ミッション、そしてプログラムについて学びました。この訪問は、インドネシアYMCA同盟総主事の Retha Andoea 氏によってコーディネートされたものでした。また、アメリカYMCA同盟 国際担当主任主事の Boon Chin Tan 氏もともに訪問を行いました。

最初にインドネシア東部のマカッサルYMCAを訪ねました。そこで私たちは、若いリーダー(指導者)たちのグループに会い、コミュニティー活動(Community Action Work)につ

いて話を聞きました。マカッサルYMCAのプログラムのひとつは、元ハンセン病コミュニティに住む30人の子どもたちへの奉仕プログラムです。また彼らは、プラスチックのごみをリサイクルすることで女性たちをエンパワーするプログラムも行っています。このプログラムは、女性たちが生計を立て、家計を楽にするために行われています。

次に西部のメダンYMCAを訪問しました。メダンYMCAはユースのための活動をいくつか行っています。そのひとつは海外のユース対象のエコ・ツーリズムで、他には聖書研究、英会話クラブ等があります。ユースたちはさまざまな教会や青少年団体から集まるとのことです。

最後に訪れたのはジョグジャカルタYMCAです。会員の大半は大学生です。役員たちは、ジャンボリー・ユースキャンプ、クリスチャン学生のためのエキュメニカル・ダイアログ、外国語の研修などといったユースのためのプログラムを開発するため、定期的に会合を開いています。滞在中、Retha総主事が各地のYMCAを一生懸命に活気づけようとしていた姿が印象に残りました。また、3つのYMCAのリーダー（指導者）たちは若く、今後さらに成長し、それぞれのコミュニティに奉仕していく可能性を十分に持っています。

Kishan Gunawardene 氏に決定



2013年5月25日、トリノコマリーで開催された第48回スリランカYMCA同盟総会において、Kishan Gunawardene氏が会長に選出されました。

Gunawardene氏は、デヒワラYMCAの会員で、YMCAに入会したのは1975年です。政府機関やNGOによって行われたさまざまなプログラムにおいて、スリランカのYMCAを代表する立場でかかわってきました。氏はスリランカYMCA同盟の多くの委員会にかかわり、世界中から高い評価を得たスリランカYMCA同盟50周年式典では重要な役割を務めました。現在APAYでは、ミッション委員会の委員として奉仕されています。

Kishan Gunawardene氏の今後のご成功と、YMCAを通じたコミュニティへの奉仕に神のご加護がありますように。

ラオナッティ国際ユース・ボランティア奉仕プログラム

Roger Peiris

2013年5月8日～12日、韓国・ソウルで国際事業コーディネーター会が開催されました。2008年春に韓国YMCA全国連盟と国民銀行(KB)が「アジアの友だち(Friends of Asia)」をスローガンとして開始したラオナッティ(RaonAtti)プログラムは、今年6年目を迎えました。これまでラオナッティ参加者はタイ、カンボジア、東ティモール、フィリピン、スリランカ、インド、バングラデシュの7か国、10のパートナーYMCAに派遣され、海外でのボランティア活動をどのように行い、経験を得るか学ぶことができました。韓国YMCAはこのプログラムを通して、持続可能な人間社会をつくり、社会や生活の変革のために働きをすすめる、ユースが地球市民社会の責任ある構成員となることを目指しています。

<p>発行元 アジア・太平洋YMCA同盟 Asia and Pacific Alliance of YMCAs 23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852-2385 4692 e-mail: office@asiapacificymca.org</p>
--

スリランカYMCA同盟新会長